

各教科等における 「平成31年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

新学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されました。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、その具体的な姿を「阿波っ子 学びのスズメ10か条」に示し、「豊かな心」・「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

育てるべき重点的な能力

- 二つ以上の考えや意見を比較して、その共通点と相違点を明らかにする能力
- 根拠を明らかにして自分の考えを説明する能力
- 複数資料から必要な情報を選択・収集し、それを分類整理して、自らの考え・意見を表現する能力
- 自らの思考過程を振り返り、その思考過程を説明・評価する能力

すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

正確に読み取らせるには！！

- 何が書かれているかを的確に捉えよう！



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連づけてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



国語

本県の課題

- ◆文章の内容や表現の特徴・効果を捉え、目的や意図に応じ、条件に即し表現することに課題がある。
- ◆目的に応じて、複数の資料を結び付けながら読んだり、必要な情報を根拠として自分の考えを深めたりすることに課題がある。

目指す子供の姿

- 文章を読んで理解し、そこから考えたことを、目的や意図に応じて話したり書いたりして伝え合う中でより明確にしたり深めたりすることができる。
- 複数の本や資料を読み、課題解決のために必要な情報を選び、効果的に活用することができる。

- ①言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現となるよう工夫改善を図った学習指導の充実
 - ◇言語活動を通して、国語科の資質・能力を身に付けることができるよう、課題設定や学習指導過程、学習指導・支援の方法などを工夫するとともに、身に付けた国語科の資質・能力を子供が自覚できるようにする。
 - ◇言葉による見方・考え方を働かせ、言葉の特徴や使い方などを問い直し意味付ける中で、語彙を豊かにし、言葉への自覚を高め、自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。
- ②目的に応じ、複数の文章や資料を読む活動の充実
 - ◇複数の文章や資料から必要な情報を取り出し、それらを比較したり関係付けたりするなど情報と情報の関係を理解する活動や、速読・摘読など効果的な読み方を工夫する活動を取り入れる。
 - ◇図書館を利用し、様々な本などから情報を得て活用する読書習慣の定着につながる学習を充実させる。

社会

本県の課題

- ◆社会的事象の意味や意義、事象の特色、事象間の関連をつかむ力を高める必要がある。
- ◆社会的事象に対して、主体的に問題解決できる力を高める必要がある。

目指す子供の姿

- 必要な資料から、より確かな事実を読み取り、社会的事象の意味や意義を解釈できる。
- 社会的事象に関心をもち、自ら考え、自分の意見を説明できる。

- ①社会のしくみを理解するための学習の展開
 - ◇地図や統計等、各種の資料を読み取らせることで、社会の事実をつかませる。
 - ◇「なぜ」、「どうして」という疑問をもたせ、児童生徒の意識の流れを考慮して、社会的事象の意味や意義をつかむ授業を構想し、社会のしくみを理解させる。
- ②児童生徒が主体的に問題解決する学習の充実
 - ◇児童生徒の関心を高め、多様な意見が出てくる適切な学習問題（学習課題）を設定する。
 - ◇問題解決のために、自ら考え、自分の意見を説明したり、話し合ったりする学習活動を充実する。

算数
数学

本県の課題

- ◆分数や小数、割合の意味理解が十分でない。
- ◆規則性を見いだすなどの関数的な見方や考え方が十分でない。
- ◆自分の考えを文字式や図など数学的に表現する力や問題を筋道立てて解決する力が十分でない。

目指す子供の姿

- 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。
- 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。
- 算数・数学を学ぶ意欲を高めたり、学ぶことの意義や有用性を実感したりすることができる。

- ①自力解決の場の設定と集団解決の場の充実
 - ◇自力解決の場を設定し、思考力、判断力、表現力等の伸長を図る。
 - ◇集団解決の場での言語活動の充実を図り、本時の目標を達成できるようにする。
- ②板書の充実と学びの自覚化
 - ◇算数・数学における言語〔図（絵）など〕を用いて、授業展開が「可視化」できる最終板書にする。
 - ◇自ら学んだことを振り返る場の設定及び学びの過程の振り返りも入ったノート指導の充実を図る。

理科

本県の課題

- ◆学習した内容に関する知識を活用し、日常生活に適用して考察したり説明したりすることが十分でない。
- ◆事物・現象をモデル等と関連付けて理解し、説明することなどが十分でない。

目指す子供の姿

- 日常生活に見られる身近な事物・現象と理科で学習した知識・技能とを結び付けて考えることができる。
- 科学的に思考したことをモデル等を用いて表現し、思考を深めることができる。

- ①児童生徒の主体的な学習活動の充実
 - ◇身近な事物・現象の中に問題を見だし、学習内容と関連した課題を設定する。
 - ◇見通しをもって観察・実験を行い、学習内容を日常生活に見られる現象と関連させるなど、自然の事物・現象を科学的に探究する学習活動を充実させる。
- ②科学的に思考させ、表現させる学習活動の充実
 - ◇観察・実験の前に予想や仮説を立て、観察・実験の後に考察等を行う学習活動を充実させる。
 - ◇各自の考えを、図やモデルを用いて科学的な筋道を立てて説明し、互いの考えを共有する場面を設定する等、深い学びを実現するための学習活動を充実させる。

本県の課題

- ◆体験活動を通して得られた気づきの質を高めるための支援が十分に行われていないことがある。
- ◆一人一人の思考過程を丁寧に見取り、支援することが十分に行われていないことがある。

目指す子供の姿

- 自分の思いや願いの実現に向けて、対象への働きかけや人との関わり方などを自分なりに考え、主体的に活動することができる。
- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考えている。

①気づきの質を高める支援の工夫

- ◇対象にじっくりと繰り返し関わり、試行錯誤したり納得のいくまで追究したりできる体験活動を設定する。
- ◇子供の伝えたい思いを大切にしながら多様な表現活動を取り入れ、他者と伝え合い交流する場や学びを振り返る場を充実させる。

②子供に寄り添った見取りと支援

- ◇「指導と評価の計画」を作成し、学習活動や配当時間に応じて重点的に評価する場面を捉え、多様な評価方法で子供の姿を多面的に見取っていく。
- ◇見取ったことに共感したり、意味付けたり、価値付けたりして、子供に寄り添った支援に努める。

本県の課題

- ◆生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化について関心や理解を深めることが十分でない。
- ◆感性を働かせ、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力が十分に育っていない。

目指す子供の姿

- 学習活動を積み重ねることによって身に付いた、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わっている。
- 他者と協働して主体的に活動し、よりよい音楽表現を生み出したり、音楽のよさや美しさに気付いたりしている。

①ねらい・学習活動・評価の一体化と音楽的な見方・考え方を働かせる学習活動

- ◇ねらいや評価規準を明確にするとともに、ねらい・学習活動・評価の整合性を図る。
- ◇学習指導要領の指導内容を踏まえ、ねらいを達成するために、音楽的な見方・考え方を視点とした手立てを明確にし、深い学びに向けての指導を工夫する。

②子供の思いや意図を音楽活動に生かす学習の充実

- ◇音楽を形づくっている要素を支えとして、知覚（聴き取る）と感受（感じ取る）を関わらせ、思考・判断し、表現する一連の過程を大切にしながら授業づくりに努め、思いや意図をもって音楽表現したり、味わって聴いたりできるようにする。

本県の課題

- ◆形や色などの特徴を捉え、表現意図やねらいをもって、主体的に表現したり鑑賞したりする能力が十分に育っていない。
- ◆日本や諸外国の美術文化について着目し、生活を豊かにする美術の働きについて理解することが十分でない。

- 形や色などの特徴を感じ取り、豊かなイメージをもって、主体的に表現活動や鑑賞活動に取り組むことができる。
- 日本及び諸外国の美術文化について理解し、継承・尊重するとともに、美術が生活や社会を豊かにする働きを理解している。

①【共通事項】を基にした学習のねらい、指導・評価の一体化と、造形的な見方・考え方を働かせる学習活動

- ◇【共通事項】を基に、児童生徒が形や色などを理解し豊かなイメージを広げるとともに、造形的な見方・考え方を働かせて、自分としての意味や価値をつくり出す学習活動の充実を図る。
- ◇学習のねらいを明確にし、評価規準を設定するとともに、評価方法を工夫して、指導と評価の一体化を図る。

②美術文化に対する関心を高め、生活や社会を豊かにする美術の働きについて理解を深める学習の工夫

- ◇我が国や諸外国の美術文化について、よさや美しさを感じ取ったり、表現方法などを理解し相違点や共通点を検討したりするなどして、我が国の文化に誇りをもち、異なる文化を尊重するよう指導する。
- ◇身近に飾られている作品や身の回りの生活で使われているものなどを基に、美術文化と関連付けた学習を実施し、生活や社会を豊かにする美術の働きを理解させる。

本県の課題

- ◆生活や技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能が十分に身に付いていない。
- ◆生活や社会の中から自ら解決したい、解決しなければいけないと思える問題を見いだすことが難しい。
- ◆解決結果と解決過程を振り返り、結果を評価し解決策を検討することが十分に行われていない。

目指す子供の姿

- 生活や技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けている。
- 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定することができる。
- 解決結果と解決過程を振り返り、さらなる解決策を検討することができる。

①実践的・体験的な活動の充実

◇直接体験することにより、知識・技能の習得、基本的な概念の理解などを確かなものにする学習活動を充実させる。

②問題解決的な学習の充実

◇題材において、育成を目指す資質・能力を明確にした上で、働かせる見方・考え方を具体的に設定し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。

◇児童生徒が主体的に課題に向き合い、協働しながら段階を追って学習が深められるような学習過程を適切に組み立てる。

本県の課題

- ◆体力調査の結果から体力の向上は見られるが、まだ全国平均に満たない種目が多く、特に持久力の向上に課題がある。
- ◆運動する子としない子の二極化現象が見られる。
- ◆健康に配慮した、望ましい生活習慣が十分身に付いていない。

目指す子供の姿

- 楽しく運動を行ったり、運動の楽しさ等に触れたりして、技能等を身に付けるとともに、仲間と関わりながら、工夫して運動（学習）課題を解決できる。
- 運動習慣を身に付け、健康で安全な生活を送ることができる。

①生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成

◇基礎的な身体能力が身に付くよう、指導内容の明確化と体系化を図る。

◇評価規準に基づいた客観的評価を実施し、その結果を指導改善や児童生徒への支援に生かす。

②体力向上のための指導の充実

◇体力を高める必要性を認識させ、その知識・技能が身に付くよう「体づくり運動」の充実を図る。

◇学習したことを学校の教育活動全体や実生活で生かすことができるよう指導の充実を図る。

③健康で安全な生活を送るための実践力の育成

◇自らの健康課題を見つけ、改善するための思考力・判断力などが身に付くよう指導を工夫する。

◇身近な生活の中で、健康・安全について理解を深め、行動できるよう指導の充実を図る。

本県の課題

- ◆自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深める学習が、十分にできていない。
- ◆学年が上がるにつれて、自分自身のものの見方、考え方、感じ方を素直に表現できない。

目指す子供の姿

○自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きようとする。

○自らの思いを素直に表現し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感することができる。

①豊かな学びで「生き方」を考える授業づくり

◇道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考えかたなどを確かに想起したりできるようにする。

②表現し考えを深める授業づくり

◇自分の考えを基に書いたり話し合ったりするなどの表現する活動を充実させ、児童生徒が自分自身への問い掛けを深め、心の成長を実感できるようにする。

◇他者の多様な感じ方、考え方に触れることで自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめたり、これからの課題を考え、それを実現していこうとする思いや願いを深めたりすることができるようにする。

本県の課題

- ◆外国語で、自分の本当の気持ちや考えを伝え合う言語活動が展開されていない場面がある。
- ◆英語を得意とする生徒と、不得意とする生徒の二極化がみられる。

目指す子供の姿

- 外国語を通して主体的に人と関わったり、人と関わることの大切さを感じとったりしている。
- 英語の学習に対して意欲的に取り組むとともに、コミュニケーションの手段として英語を活用することができる。

①言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的や場面、状況などの設定を工夫し、児童生徒が自分の思いや考えを伝え合う言語活動の充実を目指す。
- ◇中学校では、伝え合う内容を重視した言語活動を繰り返すことを通して、学習事項の定着を図る。

②「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の総合的な育成

- ◇児童生徒が「できること」を実感できるような評価方法を工夫するとともに、小中高を通じて一貫したCAN-DO型学習到達目標を設定し、児童生徒と目標を共有することを通して、指導と評価の一体化を図る。
- ◇中学校では、教科書の内容等を効果的に扱い、技能統合型の活動を工夫しながら、年間を通して4技能のバランスのとれた育成を図る。

本県の課題

- ◆問題解決的な活動が発展的に繰り返されるような探究的な学習となっていないことがある。
- ◆体験したことや収集した情報を基に話し合ったり、整理・分析したりする活動が十分に行われていないことがある。

目指す子供の姿

- 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとしている。
- 友達と一緒に活動したり話し合ったりしながら、自己を振り返り、自分の考えや意見を再構築している。

①探究的な学習としての充実

- ◇探究的な学習の過程(「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」)が発展的に繰り返されていくような学習活動を重視する。
- ◇多様な方法で収集した情報を、種類ごとに分類したり、細分化して因果関係を導き出したり、批判的・複眼的な視点で分析したりして、思考する活動へと高める。

②体験活動と言語活動の充実

- ◇体験活動を問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けるとともに、互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換や交流活動など、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を重視する。
- ◇体験したことや収集した情報を、言語により整理したり分析したりして考え、それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動を重視する。

本県の課題

- ◆学校や学級における生活上の諸問題を、話し合いを通して解決しようとする活動が十分に展開されていない場合がある。
- ◆特別活動の目標を達成するために、学級活動の内容に応じて効果的な授業展開を行う必要がある。

目指す子供の姿

- 話し合い活動を通して互いの意見の違いを認め、少数意見を大切にしながら合意形成を図り、諸問題を解決しようとしている。
- 集団としての合意形成や一人一人の意思決定を適切に行い、実践している。

①「合意形成を図る」「意思決定を行う」学級活動の充実

- ◇必要性のある議題や題材を設定し、根拠を明確にして自分の考えを話したり、意図を捉えながら聞いたりして、「折り合いを付けながら合意形成を図る」「集団思考を生かした個々の意思決定を行う」話し合い活動ができるように指導・支援を工夫する。
- ◇「めざす子供の姿」を明確にした特別活動の全体計画や年間指導計画を作成する。

②「多様な考え」「自分の考え」をよりよい方向へまとめていく活動の充実

- ◇実践や体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視するとともに、次の活動に生かすことができるように支援する。